



携帯電話とメール機能

携帯電話には次々と新しい機能(サービス)が追加され、音声を伝えるだけでなく、今やデジタル化された様々な情報を伝送する身近なツールとなっています。とくに、携帯電話を使ったメール機能(文字情報の伝達)は個人同士のコミュニケーションの手段としてだけでなく、会社から社員への連絡や設備の異常通報など、業務用としても広く使われるようになりました。

メール機能の歴史

携帯電話でメールが使えるようになったのは約4年ほど前、携帯電話にデジタル機種が登場してからのことです。当初のメール機能は、携帯電話にポケットベルの機能をもたせたようなもので、わずか30字程度のメッセージしか送受信できませんでした。

同じ通信(電話)会社の携帯電話同士であれば、その電話会社のメールサービス機能を利用して、携帯電話の画面上で作成したメッセージをそのまま相手の電話に送ることができました。しかし、異なる電話会社の携帯電話や、一般の電話からメッセージを送信するときは、送りたいメッセージを文字コード表に基づいて数字と記号で入力し、トーン(DTMF^{注)}信号で発信するという、ポケットベルにメッセージ送るときと同じ方法をとらなければならず、その手間が大変でした。

しかし現在、携帯電話にeメール機能をもたせるのが当たり前になりました。この機能によって、文字数の制限はありますが、パソコンを使う場合と同じように、携帯電話でもeメールの送受信ができるようになりました。また、異なる通信会社の携帯電話の間でも、相手先のeメールアドレスを指定するだけで、画面上で作成したメッセージを簡単に送ることができるようになりました。

通信会社各社は独自に、様々な工夫をこらしたメールサービスを提供しており、さらにパケット通信による課金制をとっているため、音声による通話に比べ、より安価に情報を伝達できます。このため、現在では音声よりもメール機能の方が頻繁に使われていると言っても過言ではないでしょう。

メールの種類

携帯電話の通信会社ごとに様々なメールサービスがありますが、ここではNTT DoCoMoの携帯電話で使えるメール機能についてご紹介します。

①iモードメール

iモードメールは、NTT DoCoMoのiモードサービスを利用したメール機能で、基本的にはプロバイダ経由で送受信するパソコンのeメールと同じです。このため、異なる通信会社の携帯電話の間であっても、eメール機能を搭載している携帯電話であれば、互いにメールの送受信を行うことができます。

②ショートメールサービス

ショートメールサービスはNTT DoCoMoの携帯電話で使える、メール機能の元祖とも言えるサービスです。送信できる文字数は全角25文字以内で、相手がNTT DoCoMoの携帯電話であれば、携帯電話の画面上に入力した文字メッセージを、ショートメールセンター経由で相手の携帯電話に送信することができます。一般の電話や、NTT DoCoMo以外の携帯電話からメッセージを送るときには、送りたいメッセージ内容を区点コードに基づいた数字と記号の組合せにし、NTT DoCoMoのショートメールセンターを経由して送信することになります。

NTT DoCoMoの携帯電話でiモードサービスの契約をしていれば、そのままショートメールサービスを利用することができますが、iモードサービスの契約をしていない場合には、別途、ショートメールサービスの契約が必要になります。

異常通報装置への応用

エム・システム技研では、NTT DoCoMoのショートメールサービスでメッセージを送信できる異常通報装置として、“てれまる”(形式:TLO)を用意しています。“てれまる”は音声による異常通報だけでなく、メールによる文字情報としても通報することができます。メールによる異常通報には、視覚的に確認できる、通報の履歴が残るといったメリットがあります。

注) DTMF : Dual Tone Multiple Frequency

*てれまるはエム・システム技研の登録商標です。

【(株)エム・システム技研 システム技術部】